

オンライン職業体験に 小中学生130人以上が参加



当社は8月18日、日本で初となるオンライン職業体験イベント「海運業編～船が支える豊かな暮らし～」を開催しました。このイベントは小学1年生から中学3年生までを対象とし、船員の仕事の魅力や安全運航の取り組み、海運業が果たす役割のほか、地球環境を守るため当社が実施するさまざまな取り組みを紹介するものです。イベントはクイズや動画を交えた3部で構成され、参加した小中学生からは、チャット機能などを通じて多くの質問、驚きや関心の声が寄せられました。

イベントは当社と、商船三井小中学生アンバサダーを務める群馬県在住の萩原一颯さん、竜誠さん兄弟が主催するいぶりゅう学園との共催で行われました。当社からは大型船を操船する現役の船長とコーポレートマーケティング部の社員が参加。国内外から参加した小中学生の数は、合計で130人以上におよびました。

第1部では萩原さん兄弟がクイズ形式で、当社の事業内容を紹介。海運業のスケールの大きさととど

まらず、航空輸送等を含めた物流、さらには船員養成のための大学運営や国内外の不動産事業等、当社グループ企業を含めた幅広い事業概要に触れ、参加者からは世界中に広がる事業の幅広さ、多様さに驚きの声が挙がりました。

続いて第2部では、船上で働く船員の仕事内容、船員を24時間365日、陸上からサポートする運航支援体制を紹介。船長が、日々の詳しい仕事内容や船乗りとしてのやりがい、楽しさを子どもたちに分かりやすく解説しました。船上での生活の様子は普段なかなか触れる機会がないだけに、子どもたちにとっては貴重な経験の場となりました。さらに、過去に起きた事故を教訓として、当社が設置した安全運航支援センターについて解説。さまざまな気象データや治安情報等を活用しながら、船長を船の上で孤独にすることなく、安全・安心な運航ができるよう支援する当社の取り組みを紹介しました。

最後の第3部では、環境負荷の低減に向けた当社の最新の取り組みについて紹介。中でも次世代帆



船プロジェクト「ウインドチャレンジャー」は子どもたちの注目を集めました。現代の船で再び帆の利用が始まろうとしていること、風を利用して進むという本船コンセプトに多くの参加者が驚き、共感を呼びました。また、最後の質疑応答では、海賊に関する質問に関心が集中。それ以外にも「船上での食事はどのようなもの?」、「コロナを機に船乗りの仕事はどう変わりましたか?」など、普段の生活からは少しイメージが難しい船員の生活についての質問が寄せられました。質疑応答と並行して行われた「環境に優しい船の絵」の発表会では、子どもたちが、自身で考案し描いた絵をモニター越しに映してアイデアを紹介。船上に設置した太陽光パネルで発電し、その電気で運航する船など、次世代船がもつ可能性



を大いに感じさせる数多くの作品が披露されました。

オンライン職業体験イベントというこれまでにない取り組みとなりましたが、クイズや挿絵など様々な工夫により、参加した子どもたちにとって大いに刺激となり、また楽しめる内容となったようです。子どもたちからは「とても分かりやすい説明会で、船の役割や生活などを知り、“船”がもっと身近に感じられるようになった」との声や、「プレゼントのペーパークラフトを作るのが楽しかった」との声が寄せられました。

当社は引き続き、将来の社会の担い手となる子どもたちに船員の仕事、海運業の魅力や環境問題・未来のための取り組みを伝え、豊かな未来をひらくための活動を続けてまいります。